

海自厚木基地で色々な職種を実体験

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山 2空尉）は、12月10日（金）に海上自衛隊入隊予定者6名を海上自衛隊厚木基地へ招待した。厚木基地は、米海軍厚木航空施設司令部等が配置されていて、米海軍と共同使用している。今回は主に海上自衛隊の第4航空群を見学した。

当日は、晴天に恵まれ富士山が綺麗に見えた。厚木基地の正門に到着し、基地の広報担当から入門について説明を受けた後、見学者たちは緊張した面持ちでゲートを通して。米軍の隊員たちともすれ違い、海外のような光景に目を奪われていた。見学は、エアーミナルから滑走路を見ながら航空機や施設の説明を受けることから始まった。資料館では、基地の歴史や活動等の概要説明を聞き、その後管制塔に上がると、塔内から見える広大な景色と管制官の仕事を生で見て感激していた。基地警備隊では、女性自衛官2名による儀仗とラッパ手の栄誉礼が披露された。初めて見る64式小銃に見学者たちは、「このくらい重いですか」「防衛大学校でもその銃を使用しますか」等の質問が飛びかかった。昼食のため移動する途中、トーチカ（コンクリート製の防陣地）や米戦闘機F-14トムキャットの屋外展示機等が現れると、見学者たちは初めての光景に終始笑顔だった。昼食は隊員食堂で金曜日恒例の海自カレーをいただき、男性見学者たちはおかわりをするほど好評だった。

昼食後は整備補給隊と地上救難班を見学。整備補給隊では、C-130RやP-1等の航空機や整備について説明を受けた。格納庫内の傍らでは、隊員たちが日常整備業務を行っており、テキパキとした姿は見学者たちの視線を集めていた。地上救難班では、ポンベを背負って消防服の試着をしたり消防車と隊員による放水を見学し、隊員たちの業務を肌で感じることができた。災害や大規模航空事故が発生時に使用する油圧カッター体験をした際には「実際に触ることができて、貴重な体験でした」と満足そうだった。

今回の見学で多種多様な職種の説明を隊員たちから聞いたこと、施設や装備品を実際に自分の目で見たことにより、自身の将来像が見え充実した1日を過ごせたようだった。見学終了後には「艦艇勤務希望でしたが、航空部隊にも興味を持ちました」「海上自衛官と話す機会があって、仕事内容や生活環境が分かりました」と入隊をイメージするのに役立つ様子であった。

市ヶ尾募集案内所は、「入隊予定者のニーズに合わせ、今後も基地見学等を積極的に行い、入隊予定者の不安及び疑問を解消できるように努めいく。広報官と二人三脚により確実に入隊入隊までフォローしていく」としている。



C-130R 前



P-1 前



F-14 前で記念撮影



資料館見学



防水見学